

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 8 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24390133

研究課題名(和文)わが国の医学部入試の妥当性と将来像に関する多面的国際共同研究

研究課題名(英文)A multifaceted international joint research project on validity and future vision of medical school entrance examination in Japan

研究代表者

大滝 純司(OTAKI, Junji)

北海道大学・医学(系)研究科(研究院)・教授

研究者番号：20176910

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,800,000円

研究成果の概要(和文)：国際シンポジウムを開催し医学部入試の妥当性に関する情報を共有した。(1)医学部入試の方法や合否基準の妥当性を検証した研究は少ない。(2)教育格差を是正する入試制度や、学力以外の指標も重視する評価方法の開発が試みられている。(3)医学部に進むには不利な状況にある群が調査により示され、公正や機会均等の問題が明らかになりつつある。

日本全国の高校の進路指導教員を対象に質問紙調査を実施した。半数以上の回答者が、経済的に困難な状況にある生徒は医学部に進学するのは比較的困難で、都市部に住んでいるほうが医学部に入学しやすいと回答した。4割を超える回答者が、経済的理由で医学部進学を断念した生徒がいたと回答した。

研究成果の概要(英文)：We held an International Symposium and a wide range of information was shared; (1) Few studies have confirmed the validity of the assessment methods and acceptance criteria for entrance exams. (2) Efforts are being made to develop entrance examination systems that correct for educational disparities and assessments that emphasize other indicators in addition to academic performance. (3) Analysis has shown that certain groups of students seem to face disadvantage in entering medical schools, and it has raised concern about fairness and equal opportunity.

We also conducted a nation-wide survey by sending a questionnaire to high schools in Japan and asked the guidance counselors to answer it. The majority answered it is relatively difficult for economically disadvantaged students to go on to medical schools, and relatively easy for those living in urban areas to do so. More than two-fifths answered there were students who gave up medical school enrollment for economic reasons.

研究分野：医学教育学

キーワード：医学教育 医学部入試 教育格差 教育学 社会学 教育工学 進路指導 国際比較

1. 研究開始当初の背景

格差社会が日本の大きな課題になる中、教育格差も深刻になっている。現在の医学部入試は、事実上、進学校の成績上位者、そして予備校で受験対策を学ぶことができる者でなければ、合格することがきわめて困難になっている。

日本の医学部入試の評価方法や合格基準は、各大学によって決められているが、上述したようにその妥当性を俯瞰し多角的に検証した研究は見当たらない。

一方、医学部入学者に占める女性の割合が増加したことが医師不足の一因であるとする分析がなされ、医師不足の地域出身の志願者を医学部・医科大学に多く入学させる、いわゆる「地域枠」が政策的に導入されるなど、医学部入試に関する要求や介入が顕在化しつつある。

また、医療に対する信頼の低下が日本の大きな社会問題となっている。医学・医療情報が社会に溢れ、人権意識の高まりや価値観が多様化する中、患者や非医療者から医療者への要求は増大している。

医学部の入学試験は、合格者の大半が将来医師になるため極めて重要である。

海外では、教育格差の是正を目指した入試制度や学業成績以外の指標も重視した評価も行われている。

2. 研究の目的

現代の日本における医学部入試の妥当性を国際比較も含めて多角的に検討し、今後のあるべき姿を探る。

情報や議論は可能な限り公開し、幅広い情報収集と意見交換を促進する。これらの活動と成果物により我が国の医師養成システムの競争力を高め、更には海外へも発信する。

3. 研究の方法

(1) 国際シンポジウム

本研究のテーマに関する国際シンポジウム“Medical school entrance examinations: challenges and reforms”を企画した。

海外から4名(英国ロンドン大学セントジョージ校ピーター・マックローリー教授、米国ハーバード大学武田裕子医師、米国アイオワ大学医学部クラレンス・クライター教授、台湾台北医学大学ネンチュン・チャン教授)の研究協力者を招いて、平成25年10月26日(土)に東京大学伊藤謝恩ホールにおいて、開催した。

(2) 質問紙調査

日本全国の高校の進路指導教員を対象に質問紙調査を実施した。質問項目は、上記の国際シンポジウムや共同研究者間の議論と先行研究を参考に作成した。

4. 研究成果

(1) 国際シンポジウム

医学部入試の妥当性に関する情報を共有した。ポスターと主な論点を以下に示す。



国際シンポジウム「医学部入試の課題と改革」

主催：H24～27年度文部科学省科研費基盤（B）「わが国の医学部入試の妥当性と将来像に関する多面的国際共同研究」研究班（研究代表者 大滝純司）
 協力：東京大学大学院医学系研究科附属医学教育国際研究センター
 目的：わが国の医学部入試の現状と課題について国際的視点から多角的に検討し、その改革の方向性を探る一助とするために、国内外から医学部入試に詳しい関係者を招いて幅広い情報を共有し議論する。

日時：2013年10月26日(土)

開場 13:00 開会 13:30 閉会 17:00 情報交換会 17:30～

会場：東京大学 伊藤国際学術研究センター 謝恩ホール

参加対象者：医学部・医科大学教員、医学生、医師、医療関係者、一般市民など（定員200名）

演者と講演内容（仮題）：

- Clarence D. Kreiter (米国：University of Iowa)：世界の医学部入試の概説
 - 大滝純司 (日本：北海道大学)：日本の医学部入試の現状と課題
 - 武田裕子 (米国：Deaconess Medical Center)：健康格差、医療格差と医学部入試
 - Peter McCrorie (英国：St George's, University of London)：英国全体とロンドン大学セントジョージ校の医学部入試の状況
 - Chi-Wan Lai (台湾：Taiwan Medical Accreditation Council) 台湾の医学部入試の状況
- 使用言語：英語および日本語（同時通訳はありませんが一部のスライドは二か国語表記です）

参加申し込み：9月中旬に北海道医学教育推進センターのホームページ (<http://hmedc.com/>) などでご案内します。定員になり次第、締め切らせていただきます。



【会場までのアクセス】

International Symposium on "Medical School Entrance Examinations: Challenges and Reforms."

医学部入試の課題と改革

主催：「わが国の医学部入試の妥当性と将来像に関する多面的国際共同研究」研究班（文科省科研費・24390133）
 協力：東京大学大学院医学系研究科 医学教育国際研究センター
 後援：日本医学教育学会 入学者選抜委員会・国際関係委員会

日時：2013年10月26日(土)
 開会13:30 閉会17:00 情報交換会17:30～

会場：伊藤国際学術研究センター 謝恩ホール
 参加対象者：医系教員、医学生、医療関係者、一般市民など

プログラム：
 世界の医学部入試の現状と課題
 Clarence D. Kreiter (米国：University of Iowa)
 日本の医学部入試の現状と課題
 大滝純司(日本：北海道大学)
 格差社会と医学部入試
 武田裕子(米国：Deaconess Medical Center)
 ロンドン大学セントジョージ校および他の英国の医学部における入学者選抜の状況
 Peter McCrorie (英国：St George's, University of London)
 台湾の医学部入試の状況
 Chi-Wan Lai(台湾：Taiwan Medical Accreditation Council)

参加費無料

主催言語：英語および日本語

医学部入試の方法や合否基準の妥当性を検証した研究は少ない。

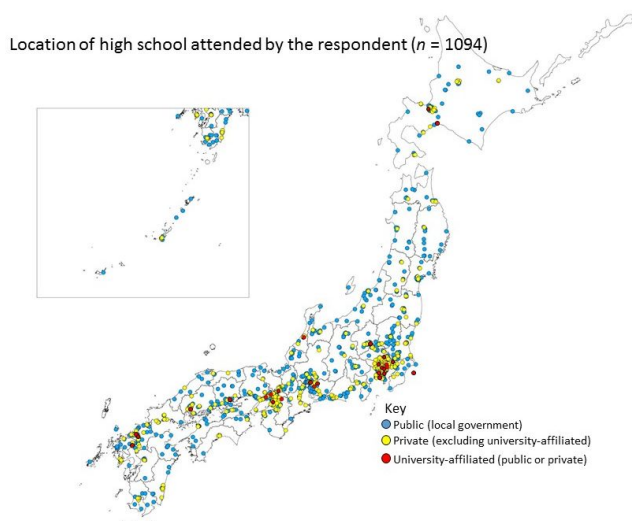
教育格差を是正する入試制度や、学力以外の指標も重視する評価方法の開発が試みられている。

医学部に進むには不利な状況にある群が調査により示され、公正や機会均等の問題が明らかになりつつある。

このシンポジウムでの発表や議論の内容を、報告書、ワークショップ、インターネットを通じて公開した。

(2) 質問紙調査

1094校の進路指導教員から回答が得られた。回答があった高等学校の所在地の分布を下图に示す。



集計結果の要点を以下に示す。詳細については、論文として発表する予定である。

半数以上の回答者が、経済的に困難な状況にある生徒は医学部に進学するのは比較的困難で、都市部に住んでいるほうが医学部に入学しやすいと回答した。

4割を超える回答者が、経済的理由で医学部進学を断念した生徒がいたと回答した。

これらの結果は、医学教育における各種の評価に関する学会である Ottawa Conference において発表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3件)

(1) 大滝純司: 医学部の入学者選抜: 何が求められ、何が起きているのか、医学のあゆみ、査読なし、255, 1124-1129, 2015

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40020675759>

(2) Clarence DK, Otaki J: Constructing a more comprehensive validity argument for medical school admission testing: predicting long-term outcomes. TEACH LEARN MED, 査読あり, 27:197-200, 2015, DOI: 10.1080/10401334.2015.1025016.

(3) Tkeda Y, Morio K, Snell L, Otaki J, Takahashi M, Kai I: Characteristic profiles among students and junior doctors with specific career preferences. BMC MED EDUC, 査読あり, 13:125, 2013, DOI: 10.1186/1472-6920-13-125

〔学会発表〕(計 5件)

(1) Otaki J, Taketomi K, Nagata-Kobayashi S, Komoda T, Shibahara M, Izumi M, Kitamura K: The influence of economic environments and residential areas of high school students on their choice of going on to medical schools: Recognition of the guidance counselors. Ottawa Conference 2016, 2016年3月22日, パース(オーストラリア)

(2) 大滝純司, 柴原真知子: 医学部医学科の入学者選抜と教育格差, シンポジウム, 第6回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2015年6月13日, つくば国際会議場(茨城県つくば市)

(3) Otaki J, Nagata-Kobayashi S, Izumi M, Komoda T, Kitamura K: Educational disparity and medical school entrance examination: A report of International Symposium on "Medical school entrance examinations: challenges and reforms." Wonca Asia Pacific Regional Conference, 2015年3月6日, 台北(台湾)

(4) 大滝純司: 教育格差と医学部入試, シンポジウム, 第46回日本医学教育学会大会, 2014年年7月19日, 和歌山県立医科大学(和歌山県和歌山市)

(5) Otaki J: Present status and issues of medical school entrance examinations in Japan, International Symposium on Medical School Entrance Examinations: Challenges and Reforms, 2013年10月26日, 東京大学伊藤ホール(東京都文京区) Tokyo,

〔その他〕
ホームページ
URL: <http://a2ms.med.hokudai.ac.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大滝 純司 (OTAKI, Junji)
北海道大学・医学研究科・教授
研究者番号：20176910

(2) 研究分担者

北村 聖 (KITAMURA, Kiyoshi)
東京大学・医学系研究科・教授
研究者番号：10186265

小林 志津子 (NAGATA-KOBAYASHI,
Shizuko)

東京医科大学・医学部・兼任講師
研究者番号：20569602

(3) 連携研究者

泉 美貴 (IZUMI, Miki)
東京医科大学・医学部・教授
研究者番号：30228655

菰田 孝行 (KOMODA, Takayuki)
東京医科大学・医学部・助教
研究者番号：80532704

(4) 研究協力者

武田 裕子 (TAKEDA, Yuko)
順天堂大学・医学部・教授
研究者番号：70302411

柴原 真知子 (SHIBAHARA, Machiko)
京都大学・医学研究科・助教
研究者番号：40625068

クラレンス・クライター (KREITER,
Clarence)
米国アイオワ大学・医学部・教授